

中央公民館エリア「公共施設」再編研究ワークショップ



かわら版 20180714 Vol.4

全4回のワークショップの最終回。前回のWSで、「必要な機能（コト）」を具体的にして、施設再編のコンセプト、キャッチフレーズを決めました。（Bグループも7/11に実施）

最終回となる今回は、「4つのポイント」で考え、エリア図と合わせてグループ案をまとめます。

第4回（中央公民館研修室）
2018年7月14日（土）9:30~11:50

①6/9 ②6/16 ③6/30 ④7/14
全4回（土曜日AM開催）

最終回のWSには、10歳の小学生から70代まで、合計35人が参加。グループごとの「まとめ」作業とグループ案の発表まで行いました。

すでに“顔なじみ”になったグループ作業では、開始早々、活発な意見が飛び交うものの、新しいアイデアも出て、まとめるのが難しくなることも…。

第4回のテーマ「お互いの考えを知る」

- 考えてきたコトを具体的に形にする（4つのポイントで形にする）
- 発表をとおして考えを共有する

グループ作業【4つのポイントで、施設再編案を考える⇒発表する】

- ① 今ある施設をどう変えるか。施設のルールや使い方はどうするか。
- ② 考えた施設を運営・維持するための工夫は。利益創出・運営主体・市民の関わりは。
- ③ 考えた施設の必要性。特に、大規模な再編であるならば、その必要性も比例するのでは。
- ④ 考えたことの優先順位は。「すぐにできるコト」「自分たちでできること」「再編の順番」



各グループによる熱いプレゼンテーションに、それを聞く他のグループからは、大きな拍手が送られました。今回のWSでは、「いろいろな考えがあることを知る」こともできました。

Aグループ 「大人から子供まで楽しみを学ぶ場」

提案説明(イチオシ)
芝は マンガ 飲食 Wi-Fi

①変更点
公民館の建物と併設
自由な利用のマンカを置く
小学校のグラウンドを芝にする

②運営
飲食店
公民館の運営(公民館員)

③必要性
公民館の建物と併設
公民館の運営(公民館員)

④優先性
飲食 → Wi-Fi → マンガ → 芝

Bグループ 「(大人+子供) × 地域 = 結びつき」

提案説明(イチオシ)
色んなイベントの施設
施設が広がりやすい地域に結びつきを強くしたい。

①変更点
公園 → 他にないような遊具(カールハウス)
各施設・学習スペース開放
子ども向け → 小・中・高で別々
遊具施設 → 全体的に開放

②運営・維持
児童センター → 飲食を地元の方に提供してもらう
駅舎 → 時間ごとに地域のお客の方に提供

③必要性
公園 → ナビゲーション遊具スペースが必ず
学習スペース → 広域の安全な学習スペースが必ず
飲食 → 集うきっかけ

④優先性
①が世帯間と人のつながりのため 公園をせいでいい(市民協)
②児童センター等の整備(体育館 学校にない)
③遊具明るく(ライト)
④①②の両方を整備(学校施設)

Cグループ 「共に育む『共育エリア』」

提案説明(イチオシ)
遊んでいる子どもを見守ることが出来る。
児童館 + 公民館 = 新しい使い方
地域の魅力を発信(イベント等)
乳幼児 + 親のための場所(新築されたママ友の癒しのオアシス)

①変更点
児童館 + 公民館 複合化
「建物」をイベント「遊具」を置く
「放課後児童クラブ」は「小学校」へまとめる
「商工会館」 見守りスペース

②運営・維持
見守りスペースはコーヒーマシン等の
「遊具」の運営は...
「公園」は...

③必要性
施設が古い → 更新が必要
まとめることにより利用増 → 複合化
周知(例: 鴻巣市は子育ての場が充実)
公園に人が集まる → 遊具の魅力を必要

④優先性
遊具
児童館 + 小学校へ → 併用 →

Dグループ 「幸ノ巣だよ!! 全員集合」

提案説明(イチオシ)
施設を一体化することで多くの人が集まり交流する場に

①変更点
管理の一元化
公民館の予約方法
利用者のための施設づくり 時間制ネット活用
施設の一体化

②運営・維持
公民館が中心
学校、市民、市が協働で運営 補助

③必要性
利用率 施設の一部 → 経営削減 安心感
老朽化

④優先性
1. 小学校 → 中学校的な空き教室を利用
2. 公民館 → 中学校的な空き教室・公民館に中継
3. 中学校 → 公民館に展開

Eグループ 「コミュニティサロン」

提案説明(イチオシ)
世代間交流と
分かれている施設を一体化させることで豊かにする

①変更点
児童館・公民館機能一体化
利用者主体の運営委員会設置

③必要性
老朽化した使い慣れた
建物を新しいものにする。

④優先性
①情報発信の重要性
②建設は小・中・高の空き教室を
利用してサクル活動を救済

講評

【前橋工科大学・堤准教授 (BaSS プロジェクト代表)】

皆さん、お疲れさまでした。短い時間の中で、素晴らしい提案が多くあったと感じます。中でも「すぐできること」は、すぐに実行していただきたい。「時間がかかること」は、市もしっかり検証しながら計画を作っていくっていただきたい。

例えば複合施設を作っても、世代間の交流が自然に生まれるものではなく、もうひとつきっかけとなる工夫が必要。それと、自分たちができること(欲しいもの)は、自分たちで実行する(作る)ということも考えてほしい。

学校、公民館、体育館、図書館は全国どこにでもある。その関係性が地域によって異なる。=いかに連携するかがポイントとなるので、地域を持続可能にし、活性化につながるような研究を続けていってほしい。

鴻巣市・原副市長



4回にわたるワークショップに参加いただき、誠にありがとうございました。

鴻巣市の人口は、近年転入超過・出生数増加の傾向にありますが、全体として人口減少・少子高齢化は免れません。

そのような社会状況の中で、一斉に老朽化が進む公共施設のあり方についても、施設を単体で、縦割りで考えるのではなく、今回のように“エリア”で、そして市民の方が中心となつての“施設再編研究”については、大変意義があったものと考えます。これからも市民、地域に関係ある方と協働で、様々な課題の解決に取り組みたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

主催：鴻巣市
協力：公共資産経営研究プロジェクト (BaSS プロジェクト)